

招集期日 平成24年9月13日(木曜日)

招集場所 入間市庁舎5階第2委員会室

開 会 9月13日(木曜日)午後 3時05分

閉 会 9月13日(木曜日)午後 3時52分

出席委員	委員長	宮岡治郎	副委員長	横田淳一
	委員	小出亘	委員	吉澤かつら
	委員	金澤秀信	委員	永澤美恵子
	委員	関谷真奈美	委員	平山五郎
	委員	宮岡幸江		

欠席委員 なし

説明のため出席した職員 市民部長 都市建設部長
関係職員

委員会に出席した事務局職員 高山 勇 鹿山 明 美

△ 開会及び開議の宣告（午後 3時05分）

委員長 ただいまの出席委員は9名であります。定足数に達しておりますので、これより交通対策特別委員会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

△ 議事

委員長 お手元の次第に従いまして議事に入ります。

まず、1の危険な踏切と市道の整備についてを議題といたします。

本日は、要望事項の取りまとめを行いたいと思います。事前に各会派から要望事項を出していただいておりますので、これについて順次説明をお願いします。

最初に、保守系クラブからお願いします。

宮岡幸江委員 保守系クラブからの危険な踏切と市道の整備についての要望事項の1番として、西武池袋線、仏子第2号踏切についてを説明いたします。

ここに書かれておりますけれども、読ませていただきます。

四十数年前の複線化工事で、北側に線路を増設した。その際に、線路を直角に南北に縦断する元来の安全な踏切を、線路を北東から南西に斜めに横断するもう一つの狭い踏切側に寄せて、2つの踏切を1つにまとめた経緯がある。

さらに、線路に並行に走る市道幹46号線の線形を北側に移動し、交通安全や円滑な通行の観点からは、極めてゆがんだ形態の踏切となっている。

現在の市道G544号線の拡幅用地を確保しても、当面は一方通行の解除は踏切の通行の安全上不可能である。現状の踏切を元来の位置に復帰させ、北側の幹46号線のかさ上げと相まって、仏子地区の南北の縦貫ルートを確保すべきである。

これは、仏子駅北口の交差点の「歩車分離信号」による、車両の交通渋滞の解消にもつながるといった大きな波及効果も期待できるということと、2番目として、西武池袋線、入間市第2号踏切（牛沢）森坂についてです。

市道幹24号線（通称森坂）といった、市道の幹線道路の踏切であり、北側の一般県道富岡・入間線に接近した位置にあり、現状の幅員3メートルの踏切では、対面通行が不可能で、交互通行となり、県道の交通渋滞ももたらしている。

入間市の総合振興計画の後期計画にも最優先課題として掲げられている。交通安全対策として、線路の高さを数十センチ持ち上げて、森坂の急勾配を解消する必要もある。

平山委員 3番、JR八高線豊岡街道踏切（南峰）というようになっております。

位置が西側の県道二本木飯能線に接近しており、県道から分岐する市道C184号線が東に下る。この線路側を谷底とする急勾配が、最大の問題点となっている。

対策としては、線路の位置のかさ上げが必要と思われる。あわせて、歩行者の安全確保のために、幅員の拡幅も必要である。

委員長 ありがとうございます。

次に、公明党入間市議団、お願いします。

金澤委員 今回の危険な踏切、市道の改良についての要望事項ということで、踏切についてなのですが、公明党入間市議団としては、どの踏切に優先順位をつけるかということについては、この委員会の中でどうしても1、2、3番をつけてしまうと、やっぱり各地域地域の地元に対する思い入れはどうしても強くならざるを得なくなってしまうということもあり、本当に公平・公正にできるのかというような判断もありましたので、そういう意味を込めて、私たち公明党市議団としては、踏切について、各議員が会派で順位をつけるのではなくて、優先順位の見直しをしっかりともう一回見直し方法を提案させていただいて、その透明性を高めた順位づけを行った上で、しっかりと執行部のほうに協議をしていただいて、予算との兼ね合いも図りながら、もう一回見直しをしてほしいというようなことを提案させていただきます。

ちょっと読ませていただきます。

優先順位を見直す段階で、最も重要とする点、基準ですよ、それについては、歩行者や自転車等の交通量が多いこと、また過去に交通事故が発生していること、危険の高いことですね。または、今後発生するおそれがあることなど、市民にとってまずは危険度が高い場所であるとの観点に立つ。危険度が高いということで、もう一回を基準を見直していただきたい。また、さらに危険度が高くても用地取得や予算の問題等で優先順位が後になることは、市民の安全を守る観点からすれば納得できるものではない。上記のような視点に立ち、再度、調査・検討していただくことを要望する。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

次に、日本共産党入間市議団、お願いします。

吉澤委員 では、一応ご説明させていただきます。

ちなみに、1、2、3というのは優先順位ではなくて、一応3点絞って、1点目、2点目、3点目ということで、なかなかやはり地域要望もあって難しいという部分もあるのですが、一応この3点に絞って出させてもらいました。

1番が、仏子第2号踏切については、踏切内の幅員が狭く、市道G539号線の道路形態が複雑であることや幅員が狭いこともあり、対向車の自動車等のすれ違いが困難で危険である。踏切の拡幅とあわせて、G539号線を直線道路にするなどを含めた改良の検討を要望する。

2、入間市第2号踏切については、前後の市道（市道幹24号線）の用地が既に確保されていることから、早急に踏切拡幅の予算確保を要望する。また、改良に必要な予算については、

工事内容ごとの内訳、市費負担、鉄道会社負担など明確にして提示を。

3、武蔵藤沢第4号踏切については、線路がカーブしていることや交通量が多いことから大変危険であり、市道踏切内の歩道の設置を要望する。大規模な改良が困難な場合は、安全を確保するために暫定的な措置として、線路内の簡易的な歩道が設置できないか研究し、対応をお願いする。市道拡幅に当たっては、基地側の用地確保に向け、国の協力を求めることということで、以上です。

委員長 ありがとうございます。

次に、みらい市民クラブ、お願いします。

関谷委員 みらい市民クラブは、まず要望としてどのようなものを持っていくのかといったときに、結局地元とり合戦みたいになってしまうおそれはあるのですけれども、優先順位をつけてこいと言った意味に解釈したので、優先順位を何とかつけました。非常に難しかったのですけれども、上から順番に、1から順番に優先順位がついていますけれども、考え方といたしましては、対する相手方が大きいところが交渉時間に時間がかかる可能性が高いので、それを上に考えると。次に来るのが幹線道路であると。そして、また次に来るのが公共交通が通っている場所であると、そういった考えをもとに優先順位をつけました。

その結果、紙に書いてあるとおりですけれども、1番が黒須にある武蔵藤沢第4号踏切、次が牛沢にある入間市第2号踏切、そして次が南峰の桂川街道、そして次が勾配が急である南峰の豊岡街道、そして次が仏子の東逃水……ごめんなさい。5番が同列で2つあるのですね。南峰の東逃水と仏子ということになりました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

ただいま各会派から説明がありましたが、これに対して質疑や意見などございましたらお願いします。

関谷委員 保守系クラブさんにお伺いします。

番号が1、2、3とついているのですが、これは優先順位なのか、それとも同列なのかお伺いします。

委員長 同列です。

関谷委員 わかりました。

金澤委員 同列なのですか、これ。

宮岡幸江委員 ことよりも、優先的にはこれでしょうという……

金澤委員 この1、2、3の中では別はないということ。

宮岡幸江委員 ないということです。

金澤委員 ちょっと執行部のほうに確認なのですが、我々公明党市議団であえて何か戻るよう

な形で言わせていただいて、これは大変恐縮な話だったのですが、この各踏切個々において、自動車、自転車、歩行者における交通量調査、朝夕の交通量調査とか、あとは過去の転倒事故や接触事故などの危険な症例ですね。また、将来にわたる例えば地域で住宅が分譲されて交通量がふえるよとか、将来的な問題とか、そのような要するに数字の上での判断材料としてのデータというのはお持ちですか。

現状ないのならないでお答えください。

道路整備課長 私どもで把握している事項で、交通量調査というのは私どもでは行っておりませんが、事故の関係なのですけれども、仏子の遊技場のところ……

委員長 2号踏切ですか。

道路整備課長 ええ、仏子の2号踏切です。ここのところで十数年前に車の脱輪事故がございました。かなり大きな事故だったのですけれども、その事故については把握しております。

委員長 それは電車と接触したのですか。

道路整備課長 脱輪したのですね。電車とではなくて。車が自滅というか、はい。

委員長 かなり大きな、けが人とか。

道路整備課長 けが人まではちょっと把握していないのですが……。

委員長 ありがとうございます。

金澤委員 では、お聞きしたいのですけれども、あとその踏切周辺の渋滞というのもやっぱり今後事故が起きる可能性が増すということ、あと市民生活への影響も含めて、渋滞というのも一つの数字的な判断材料になると思うのですが、では今の市の執行部として、この牛沢、森坂のところの踏切を優先順位を上げたというその根拠は、何をもとにその優先順位を今つけられる予定なのですか。

道路整備課長 牛沢は、第1番ということで、これについては踏切の拡幅は、鉄道事業者のほうも、踏切に接続する道路、これについては整備が終了していないと踏切の拡幅はしないということで、そういうことで牛沢の踏切は第1番目に拡幅整備を計画しております。

金澤委員 ということは、その踏切の前後の幅員が両方とも今、上下、南北側とも広がっているわけですね。では、なぜ逆に言うと、そこを最初に、前後の道路を拡幅したのかと、つまり踏切の拡幅の前段階として前後の道路を拡幅したわけですね。それはなぜですか。

道路整備課長 あそこの道路は、道路の拡幅については、地元からの要望もありましたし、それで通過する交通量も多いということで道路整備を実施いたしました。

金澤委員 では、ちょっと総括的にお聞きしますけれども、やっぱりこうやって特別委員会で踏切について、どの踏切も実際には早くやってもらいたいのは事実なのですが、予算の都合上そうもいかないからということで、今こうやって優先順位も踏まえた形で要望を上げようとしているのですけれども、その段階として、市としても踏切の拡幅に当たっては、予算の

制約がある中で、やっぱりそういう数字としての根拠、交通量とか、さっき言った危険度とか、事故の事例とか、そういうものをきちっと積み上げていく必要性というのにはお感じにはならないのですか。

道路整備課長 今、委員さんが言いましたものについては、整備する上での指標になると考えております。

金澤委員 私の言い方が悪かったのかもしれませんが、1つの踏切がまずあって、AならAという踏切をやるかやらないかと、いわゆる費用対……人の命にかかわることだから、費用対効果とってはいけないのですけれども、やるかやらないかというときには必要だというのはわかるのですけれども、幾つもある踏切の中でどれを先にやろうかとしたときに、それぞれの各指標、データで点数をつけていって、合計点数の高いものからやりましたというほうが市民に対しても説明責任は果たしやすいのではないのですかということを行っているのですけれども、そういう意味でデータというものをきちんと積み上げていく必要性はお感じになりませんかというふうにお聞きしているのですけれども、もう一度ご答弁ください。

道路整備課長 今言われたことは十分私どものほうも承知しています。

まず、踏切の拡幅をやる基準なのですけれども、歩行者とか自転車の通行量ですね。それから、現場の状況とか危険度ですか、それらのものを総合的に加味して、私どものほうでは拡幅の整備を計画しております。

金澤委員 しつこいようで恐縮なのですが、今おっしゃっているのは、総合的に加味したということは、つまり交通量調査、数字でお持ちなのですか、そうすると。総合的に判断して加味しておっしゃるから、では数字としてお持ちなのですね。

都市建設部長 お答えを申し上げます。

金澤議員が言われるその数字的な根拠を持って、当然市民に対してこういう危険度があるのだよという形で示したほうが、それは我々の実行段階においても示しがちゃんとついて、市民にも理解を得やすいのだろうというご意見だと思います。

そういう部分では、実際には数字的にはまだ持っていないということで、今までの踏切の状況だとか、そういう部分を判断して、とりあえず順位を決めてあるということなので、その辺について、またその検討を持って、数字的にあわせるものかどうかというのも少し研究させていただきたいと思います。

以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。あとはご意見でも結構ですけれども……。

宮岡幸江委員 先ほど金澤委員のほうから、危険度ということでどんな事故があったかという、数というお話もありましたけれども、そうすると道路整備とそれから市民部とのお互いの情報交換等がないと、なかなかできないと思うのです。それで、このごろこの仏子の2号踏切に

しても、それから牛沢にしても見ていますと、運転手の方が昔と違ってマナーがいいというか、お互いに待ちこししながら踏切内で立ち往生しないような形で通っている。でも、その結果、後に続く車が行列をつくって交通渋滞になるということがこのごろよくあるのかな、昔はお互いにもう早く行きましようと思っているから、踏切内での事故が多かったかもしれないのだけれども、今は結構そういう形での車の運転する人たちの考えとかも含めると、事故というよりも、その結果がいかに渋滞になっているか、それによって生活道路のほうまで車が入っているかということまでを調査していただかないと、なかなか管理課のほうも動きようがないのかなと思うのですけれども、その辺の情報交換というか、お互いの資料交換というか、それはどのようにされているのでしょうか。

中途半端、では会議とかあるのですか。例えば交通対策で、私たちがやっているわけだから、市民部と建設部との話し合いというか、そういう資料の交換というか、そういうことは、交通対策特別委員会があった間に何度ぐらいあったのでしょうか。

都市建設部長 私が来てから、そういう会議は持ったことはございません。

以上です。

金澤委員 今のに補足させていただいて、宮岡委員のおっしゃられたことは大事なことなので、あとプラス、きょう市民生活課さんと道路整備課さんいらっしゃっていますけれども、やっぱり細かい、警察に届けないレベルの接触事故、転倒事故、特に高齢者の自転車の線路内でふらつきの事故というのは、やっぱり多いのです。おかげさまでもう既に拡幅できた武蔵藤沢駅のすぐ横の踏切なんかも、あそこは本当に転倒事故が多かったのです。すぐ近所の人なんかはよく見ている。地元の人をよく知っているということなので、今おっしゃられたように、その横のつながり、市民生活課さんと道路整備課さん以外に、自治文化のほうを通して自治会からの地元の実際の生の現場の声、そういう転倒事故があったかないのかというのは、やっぱり自治会の人をよく知っていますから、そういう意味も含めて横断的にやっていただけたら、より危険度がやっぱり把握できるのではないかなというふうに思いますので、ご検討のほどお願いしたいと思います。

市民部長 自治文化のほうとも協力をして、市民生活、道路整備、道路管理も含めて、そのような会議が持てればいいなと思います。

ただ、踏切、今回が、私どもがどのような資料を用意すればいいかというのをできればお示ししていただければ、その方向で資料を集める努力をしたいと思います。

以上でございます。

委員長 ほかに質疑かご意見ございますか。

ほかにありませんか。

〔発言する人なし〕

委員長　　ないようでしたら、これは順番としては要望事項の取りまとめになってくるのですが、例えばですが、各会派から提案された要望事項をできるだけ取り込むという形で、正副委員長で原案をつくり、各委員会にファクスなりでお示ししたいという方法、もちろんそれを見ていただいて、再度ご意見を寄せていただくというような方向ではいかがでしょうか。

金澤委員　原則それで構わないと思うのですが、その要望書の書き方の方向性ですね、方向性として今委員長がおっしゃられたのは、各会派が各踏切に対するこういう危険度がある、こういう問題があるよという列挙していく方式、それをただ単にずらずらと並べるのがいいのか、ちょっと生意気なようですが、公明党市議団としては、それぞれ問題があるので、当委員会としてつまり優先順位を決めないで、一応改めて視察した上での危険性を列挙させていただいた上で、もう一度その優先順位を定めるためにも、見直すためにもしっかりとしたデータの把握、数字の把握を踏まえて再検討していただきたいという形でまとめていただけるということで理解してよろしいのですか。

委員長　　改めて視察といいますと、もう一度同じ6カ所を視察する可能性があるということですか。

金澤委員　私が申し上げたいのは、つまり執行部が今現在は、牛沢のみ計画に入っていて、あとは真っさらな状態なわけですよ。ただ、各委員各会派も踏まえて、それでいいのかどうかというのは、正直言って見ていただくとおり、思っているわけです。ですから、そういう意味で、この委員会としては単純にそれでいいのかという懸念もあるので、もう一度きちっと再検討していただきたいと、牛沢だけでいいというふうに、当委員会としては判断できないということで、書き方というのが方向づけられたらいいのかなと思うのですが……。

委員長　　委員長から申し上げますけれども、全体でこの踏切の件とたしかあと自転車の安全の件と、もう一つあったかと思うのですが、交通渋滞の中に、3つございますので、この危険な踏切と市道の整備の件は、きょう中ぐらいにもう終息する方向で行きませんと、年度内に間に合わないのではないかと思いますけれども……。

金澤委員　ですから、提案しているのです。

委員長　　提案ですか。そういう提案も受けて、ほかにご意見ございますか。

関谷委員　委員長、副委員長に一任するのは何の問題もなく、それでいいと思うのですが、やはり今金澤委員がおっしゃったように、どういう形でまとめてくるのかということなのだと思いますが、現状公明党さん以外は、事実上優先順位をつけてきているのですが、公明党さん以外の方が優先順位をつける方向ではなくてということで納得ができれば、優先順位をつけない形での委員長、副委員長のまとめになりますけれども、それが無理だったらそれなりに優先順位をつけるしかないような気がします。

以上です。

宮岡幸江委員　うちのほう、保守系クラブもそれから共産党さんのほうも3つ出したということで、

先ほども共産党さんも優先順位ではなくて、3つを出したうちの1、2、3ですよということのお話でしたし、私どもも、後でつけ加えてお話ししたとおりなので、優先順位というのは、みらいさんのほうはそうかもしれないのですけれども、ほかは違うと思いますよ。

関谷委員 保守さんと共産党さんに確認したいのですが、6つの中では保守系さんは3つが優先順位としては上にあると、共産党さんも6個の中では3つが優先順位があると私は受け取った、その3個の中の優先順位は決まっていなくても、6個の中で3個は優先順位はあると受け取ったのですが、その辺はそれぞれどうなのでしょう。

吉澤委員 正直言えば、こちらも優先順位はやっぱりつけづらいというのがありまして、ただあくまでも要望をまとめるという方向で出されたので、特にという意味で、具体的に1、2、3を挙げさせていただいたのですけれども、やっぱり順位、この今の話の中でも難しいという多分状況ならば、どういう形でまとめるかをお任せするにしても、こだわりはないです。順位づけについては。

委員長 ほかにございますか。

例えば、まとめ方で、冒頭に公明党さんのおっしゃっていたいろんな要素に基づいて判断すべきだということをもっと最初うたっておいて、一応複数の会派が今回この持ち出したものを大体それ相応に当てはめて、特に順序は設けませんけれども、2会派以上がやっぱりおっしゃったところは、順不同のようですけれども、それでもやはりちょっと文章としては分量多くなると思います。1会派だけのちょっとお話のように、少しこう……例えばこういうのを参考にいたしまして、書いていくと、正副委員長である程度まとめまして、それを各委員の方にファクスで送って、確認をしていただいて、ご意見もお伺いすると、そういうような方向でよろしいですか。よろしいですか。

〔(はい) と言う人あり〕

委員長 ちょっと、今金澤委員がお持ちになったのですけれども、取り組み表というのかな……

金澤委員 縦に踏切で横列で各会派の順位というか、順位かと思ったので……

委員長 その点あえて言えばね。

金澤委員 つまり、こうやって見てみると、仏子、牛沢、豊岡、あと武蔵藤沢4、5、これは2会派、3会派がかぶっているのです。かぶっていないのが桂川とあとは東逃水が1個しかないのですよね。だから、そういう意味では2会派、3会派がかぶっているのは、その4つだというのがわかります。

委員長 これも一つの目安としまして、順位とするわけではないですけれども、やっぱり記述の分量とか、いろんなこともやっぱり配慮いたしまして、原案をつくらせていただきまして、それを皆さんにご通知いたしますので、その上で検討していただきまして、こういう方法でよろしいでしょうか。

〔(はい) と言う人あり〕

委員長 では、そのように正副委員長で原案をつくらせていただきます。

次に、その他ですが、市民生活課長より報告事項がございますので、お願いします。

市民生活課長 前回、6月21日開催いたしました本会議、入間市議会交通対策特別委員会におきまして、1点ご質疑がございまして、後日ご報告するといった点でございます。市内循環バス、渋滞によりまして遅延すると、それによりまして予備の車両の代走運行する場合の費用どうなのですかというご質疑がございました。

それにつきまして、西武バスに確認をさせていただきました。基本的にといいますか、その追加の費用は請求しないという回答でございます。

以上でございます。

金澤委員 その追加の費用というのは、人件費から燃料費から含めて全て一切請求しないということ
で理解していいのですか。

市民生活課長 そのとおりでございます。

金澤委員 そうすると、今現在、私以前調べたときのていーろーどの市民生活課さんへの請求書の内
訳を見させていただくと、距離メーターとあと燃料代幾らというのだけで請求来ていますよ
ね。入っているか入っていないかわからないのではないのですか。

市民生活課長 人件費につきましては、基本的に3便、3路線を3.5便というのですか、7便、上り
3便の下り4便運行しております。月曜日が休みとかいったものの数値を換算して、人件費
を何人というふうに出しているのです。その数字が年間の稼働日数で割ってありますので、
基本的にそのプラスで運行された分というのは入っていないという考え方を持っておりま
す。

運行距離に関しても、ちょっと内部で検討したのですけれども、狭山の営業所から基本的
には入間市役所出発になります。そこまで運行してくる距離と、あとは入間市内をぐるぐる
回る、1便ですと20キロですとか、25キロとかというそういう距離の中での運行距離に基づ
いて計算しておりますので、距離の部分というのも会社の全体の経費の中で負担してしまっ
ているという形になっているかと思えます。

金澤委員 ちょっと済みません、理解が悪くて。要するに結局どうやって請求してきているかという
と、そのバスならバスの距離、何キロ走ったかというそのメーターから読み取った数字を前
の数字から差し引いて請求してきていると私理解しているのです。そうすると、1便は遅延
しているけれども、これは走っているわけですよ。ただ、遅延しているからもう一便出す
というわけであって、そうすると単純に考えると、この遅延で代車で出したこの代車のメー
ター数は乗っていないということなのですか。そういうことで含まれていないというふう
に理解していいのですね。

市民生活課長 そのとおりでございます。

委員長 ほかにご質問ありますか。

ありませんか。

金澤委員 部長のほうから、数字が必要なら具体的に示してほしいという話があったのですが、それはまた改めてということで、はっきりと指示したほうがいいのではないですか。

委員長 先ほど数字を改めて出していただくということになって……

市民部長 先ほど踏切の優先順位をつけるというようなお話の中で、これがいつまでにやらなければならないのかという問題も大きいのですけれども、自治会から意見を伺ってほしいとか、あるいは市民生活課のほうで警察から事故の情報を伺ってほしいというようなことがあるのであれば、どのような形でその集計をして、どなたに、例えばペーパーにして委員長さんにお渡しするような形がいいのか、それと、例えば先ほどありました脱輪事故のようなものまで拾うのか、正直を申し上げまして、非常に時間かかるのです。きょうのお話を伺った範囲では、まだ次々に課題もあるというお話ですので、その時間がかかることと、せっかく皆さんが6カ所の踏切をごらんになって、現場を見て、もう十分各踏切の危険度はわかったよというのと、その集まってきた情報が違うこともあり得るわけです。

私個人的な意見を申し上げさせていただければ、自治会から情報を集めるというのは、簡単そうで非常に難しいのです。それは、全員の意見が集まらないからですね。だから、感想でよければ自治会長さんに伺って、あそこの踏切の危険度はどれぐらいですかという感想でよろしければ簡単かと思いますが、非常に数で集めるとかというのは難しいことだと思います。きょうのお話のいつまでにということを考えると、私はその集まった情報を今回のこの優先順位をつけるとかに反映する、警察の情報は簡単に、それは警察のほうに数字があれば可能だと思いますけれども、自治会のほうで実際にその踏切で過去にどんな事故があったかというのは、その踏切を比較するだけの情報をきれいに集めるのは、ちょっと難しいかと思えます。

小出委員 事故の話では偶発性の問題もありますし、皆さん見に行かれて判断するというところでここまで来たわけですから、先ほど委員長がおっしゃったその方向でとりあえず今の時点でまとめてもらうという形でいいと思います。

委員長 そういう意見もございますけれども、資料請求についてはほかにご意見ありますか。

金澤委員 私言ったのは、具体的に確かに何件、何件で数字というのは確かに難しいとは思っています。ぶつかった、こすった、倒れた、よろめいたとあるのですけれども、やっぱりその踏切の近所の商店さんとかあれば、やっぱり話聞くとわかるのですよね。実際にこの間我々が視察行ったときには、確かに構造的な危険度については、認識できたのですが、やっぱり朝夕のラッシュ時に行ったわけではないので、交通渋滞の状況とか実際に車と学生の列が突っ込んで

くるときの危険度というのは、なかなかそこまでは、地元の議員であればわかるのでしょうかけれども、わからないので、そういうものも何か聞き取りして情報として集めていただいて、数字を集めるというのは確かにシビアになってしまうのでしょうかけれども、情報としてここ1年間ぐらい、そのような転倒事故とか、そういうものがあつたのかなかつたのかというのを地元の人に、踏切のすぐ近所に住んでいる人なんかでも聞き取りを、自治会を通して聞いていただければという思いで申し上げたのですけれどもね。ただ、それ以外の渋滞情報とかなんかについては、数字でやっぱりちょっとお手数かかるかもしれませんが、何かタイミングではかることによって、カウントすることによってとれるデータもあると思います。

永澤委員 多分部長がおっしゃっているのは、できたとしても、ではそれがどちらが危険とか、その危険順位をつけるためのような数字にはならないということをおっしゃっているのだと思うのです。聞くことは可能であつたとしても、それが全部の100パーセントの数字は絶対とれないわけだから、そうするとたまたま聞いた人によって、その危険性も多かつたり少なかつたりということが出てきてしまうので、確実な情報ではないということを知っていただければという話だと思うのです。

それで、今私たち、委員長、副委員長で一任して要望書をつくって、それを執行部のほうにお渡しした上で、ある意味その優先順位というか、を決めていただく中での情報にこういうものを入れましたという説明があれば、私はそれで、今回この要望書を出す段階で要る数字ではないと思うのですけれども、ですからまずはこちらをつくっていただいて、優先順位をつけた段階で、こういう話がありましたみたいなのが入るのであれば入っても、ただそれはそのAとBの危険性を比べる数字ではないということだけは今みんなが確認をしていただければいいと思うのですけれども……。

委員長 ありがとうございます。

ほかにご意見ございますか。

宮岡幸江委員 先ほどお話ししたのは、今回まとめるのに、今永澤委員が言われたり、それから小出委員が言われたように、特にすぐに必要というわけではないし、間に合わないし、ただこれを行っている2年間、交通対策を行っている中で、議員のほうに対策やっていたわけだから、例えば市民部と建設部のそういうお話があつてもよかつたのかなという気はしたのです。それがすぐにどうのではなくて、これから道路整備とか踏切のことを考える上での参考意見になる、お互いにこの市の危険なところを考える上での、お互いにこっぴだけがやっているのではなくて、一応議員のほうもやっているの、執行部側もそういうふうな情報交換なりしながら、次の施策の参考にしていただければいいなと思ったので、今までのこの間どうなつたのですかと、私はそういう意味でお聞きしました。

委員長 では、資料については、そう急ぎではないのですけれども、補足的、事業的になつてしま

いますけれども、もし出せる範囲で、客観的資料がございましたら、そのときはよろしくお願いたします。

〔(必要なですよ) という人あり〕

委員長　　そうです。出せる範囲で、合理的な……

都市建設部長　先ほど金澤議員が言われたとおり、私どものほうも根拠をやはり持っていないといけないということで、そういうデータだとか、そういうものも重要になってくるかと思しますので、そういう部分についても内部的に両部で検討しながら考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

委員長　　ありがとうございます。

ほかにありませんか。

〔発言する人なし〕

委員長　　では、そのように決めさせていただきます。

あと、次回の日程とかになりますから、執行部の方はご退席なさっても……

事務局　　その他よろしいですか。

委員長　　調整があるの。執行部も必要ですね、いたほうがいいの。

事務局　　はい。

委員長　　間違えました。済みません。

なければ、次に次回の日程について協議願います。今回は、自転車の交通安全対策についての要望事項の取りまとめですが、予定は11月となっています。いかがいたしましょうか。

金澤委員　あれだ、議員の視察がなくなったから。

委員長　　なくなりましたね。

例えば11月5日、6日あたりはご都合はいかがですか、委員皆様方。月曜日、火曜日ですがけれども、3、4と連休になります。

事務局　事務局のほうからぜひたくを言ってよろしいでしょうか。

ちょっと11月のその辺は、仕事とかいっぱい入ってしまっていて、5日はもう既に予定が入っているのですがけれども、6、7と連合区長会の視察研修なのです。

委員長　　一たん休憩いたしまして、自由に討議願います。

午後 3時50分 休憩

午後 3時51分 再開

委員長　　再開いたします。

次回の当交通対策特別委員会の開催日を11月6日火曜日の午後1時30分といたしたいと思

いますが、よろしいですか。

〔(はい) と言う人あり〕

委員長 では、そのように決定いたします。
さらに、何か、その他ございますか。
ありませんか。

〔発言する人なし〕

委員長 なければ本日の議事はすべて議了いたしました。
最後に、副委員長、ご挨拶をお願いいたします。

△ 閉会の宣告（午後 3時52分）

副委員長 本会議終了後の大変お疲れのところを引続いての特別委員会ということで、皆さん大変お疲れさまでした。

それでは、これをもちまして、交通対策特別委員会を閉会いたします。どうもご苦労さまでした。

△ 署名

以上審査の次第は、正確なることを証するため、ここに署名する。

交通対策特別委員会委員長 宮 岡 治 郎